

食品安全委員会の運営について（令和 2 年 7 月～令和 2 年 9 月）（案）

1. 食品安全委員会の開催

7 月：第 783 回・第 784 回・785 回（3 回）

（1）食品健康影響評価の要請案件（3 品目）

遺伝子組換え食品等（3 品目）	・ジャガイモ疫病抵抗性、低遊離アスパラギン、低還元糖及び低ポリフェノール酸化酵素ジャガイモSPS-000Z6-5（食品） ・ジャガイモ疫病抵抗性、低遊離アスパラギン、低還元糖及び低ポリフェノール酸化酵素ジャガイモSPS-000Z6-5（飼料） ・LFS 株を利用して生産されたリパーゼ
-----------------	--

（2）その他

- ・令和元年度食品安全委員会運営状況報告書を決定。
- ・令和 2 年度食品健康影響評価技術研究追加公募課題（案）を決定。
- ・「暫定基準が設定された動物用医薬品及び飼料添加物に係る食品健康影響評価の考え方について」を決定。
- ・食品安全委員会の運営について（令和 2 年 4 月～令和 2 年 6 月）を報告。
- ・食品安全モニターからの随時報告について（平成 31 年 4 月～令和 2 年 3 月分）を報告。

8月：第786回・787回（2回）

（1）食品健康影響評価の要請案件（4案件、11品目）

添加物（2品目）	・食品、添加物等の規格基準（昭和34年厚生省告示第370号）の改正について ・炭酸カルシウム
農薬（6品目）	・スピネトラム ・トルフェンピラド ・フェンキノトリオン ・フルオキサストロビン ・ポリオキシシン（ポリオキシシンD亜鉛塩及びポリオキシシン複合体） ・デルタメトリン及びトラロメトリン
動物用医薬品（2品目）	・エグゾルト ・デルタメトリン及びトラロメトリン
飼料添加物（1品目）	・遺伝子組換え技術によって得られた<i>Bacillus licheniformis</i> から産生されるアルカリ性プロテアーゼ

（2）食品健康影響評価の結果通知案件（3案件、8品目）

添加物（4品目）	・L-酒石酸カリウム ・メタ酒石酸 <u>「L-酒石酸カリウム」及び「メタ酒石酸」のグループとしてADIをL-酒石酸として24 mg/kg 体重/日と設定。</u> ・食品、添加物等の規格基準（昭和34年厚生省告示第370号）の改正について <u>食品安全基本法第11条第1項第1号の食品健康影響評価を行うことが明らかに必要でないときに該当。</u> ・炭酸カルシウム <u>食品安全基本法第11条第1項第2号の人への健康に及ぼす悪影響の内容及び程度が明らかであるときに該当。</u>
農薬（2品目）	・シフルメトフェン <u>ADIを0.092 mg/kg 体重/日、ARfDは設定する必要がないと判断。</u> ・デルタメトリン及びトラロメトリン <u>食品安全基本法第11条第1項第2号の人の健康に及ぼす悪影響の内容及び程度が明らかであるときに該当。</u>
動物用医薬品（2品目）	・酢酸トレンボロン <u>ADIを0.02 µg/kg 体重/日と設定。</u> ・デルタメトリン及びトラロメトリン

	<u>食品安全基本法第11条第1項第2号の人の健康に害を及ぼす悪影響の内容及び程度が明らかであるときに該当。</u>
--	--

(3) その他

- ・令和2年度食品健康影響評価技術研究の2次公募における採択課題を決定。

9月：第788回・789回・790回・791回（4回）

（1）食品健康影響評価の要請案件（2案件、3品目）

動物用医薬品（1品目）	・トロメタミンジノプロストを有効成分とする牛の注射剤（動物用プロナルゴンE Z注射液）
肥料（2品目）	・普通肥料の公定規格（昭和61年農林水産省告示第284号）の改正について（「明らか不要」案件） ・普通肥料の公定規格（昭和61年農林水産省告示第284号）の改正について（「程度明らか」案件）

（2）食品健康影響評価の結果通知案件等（6案件、17品目）

添加物（1品目）	・DL-酒石酸カリウム <u>添加物として適切に使用される場合、安全性に懸念はないと判断。</u>
農薬（9品目）	・チオキサザフェン <u>ADIを0.05 mg/kg体重/日、ARfDを0.5 mg/kg体重と設定。</u> ・1-メチルシクロプロペン <u>経口ばく露による厳密な意味での許容一日摂取量及び急性参照用量を求めることはできないと考えた。しかしながら、作物残留試験の結果、1-メチルシクロプロペンの残留量は極微量であり、農薬登録申請における使用方法で適切に使用される限りにおいては食品を通じてヒトの健康に影響を与える可能性は極めて低いと判断。</u> ・プロクロラズ <u>ADIを0.04 mg/kg体重/日、ARfDを1.6 mg/kg体重と設定。</u> ・エタボキサム <u>ADIを0.05 mg/kg体重/日、ARfDを0.75 mg/kg体重と設定。</u> ・フェンブコナゾール <u>ADIを0.03 mg/kg体重/日、ARfDを0.3 mg/kg体重と設定。</u> ・チアジニル <u>ADIを0.04 mg/kg体重/日、ARfDを1.5 mg/kg体重と設定。</u> ・ベンゾビンジフルピル <u>ADIを0.048 mg/kg体重/日、ARfDを0.1 mg/kg体重と設定。</u> ・スピネトラム <u>ADIを0.024 mg/kg体重/日と設定し、ARfDは設定する必要がないと判断。</u> ・バリダマイシン

	ADIを0.36 mg/kg体重/日（バリダマイシンA換算）、ARfDを3.2 mg/kg体重（バリダマイシンA換算）と設定。
動物用医薬品（2品目）	- ジクロロイソシアンル酸 ADIを0.86 mg/kg 体重/日と設定。 - トルトラズリル ADIを0.01 mg/kg 体重/日と設定。
肥料（2品目）	- 普通肥料の公定規格（昭和61年農林水産省告示第284号）の改正について（「明らか不要」案件） 食品安全基本法第11条第1項第1号の食品健康影響評価を行うことが明らかに必要でないときに該当。 - 普通肥料の公定規格（昭和61年農林水産省告示第284号）の改正について（「程度明らか」案件） 食品安全基本法第11条第1項第2号の「人の健康に及ぼす悪影響の内容及び程度が明らかであるとき」に該当。
飼料添加物（2品目）	<i>Bacillus licheniformis</i> JPBL001株が産生するアルカリ性プロテアーゼを原体とする飼料添加物 適切に使用されている限りにおいて、食品を通じてヒトの健康に影響を与える可能性は無視できる程度と考えられると判断。 - ジブチルヒドロキシトルエン ADIを0.25 mg/kg体重/日。
特定保健用食品（1品目）	トク牛サラシアプレミアム 提出された資料に基づく限りにおいて安全性に問題はないと判断。また、本食品は血糖値に影響するとされている食品であることから、「特定保健用食品個別製品ごとの安全性評価等の考え方について」（平成19年5月10日付け食品安全委員会決定）の2の（2）に規定する対応方針に基づく対応が必要であり、事業者は、健康被害情報の収集・情報提供に努めるとともに、治療を受けている者等が摂取する際には、医師等に相談することの注意喚起表示を行うことが必要であると判断。

（３）その他

- ・食品健康影響評価技術研究及び食品安全確保総合調査の優先実施課題（令和３年度）を決定。
- ・令和２年度食品健康影響評価技術研究の３次公募における採択課題を決定。
- ・令和元年度終了食品健康影響評価技術研究課題の事後評価結果を決定

2. 専門調査会等の運営（全 3 1 回（いずれもweb開催））

専門調査会等名	開催回数	調査審議案件
添加物	3 回	・ キチングルカン ・ ポリビニルイミダゾールーポリビニルピロリドン共重合体 ・ 亜硫酸水素アンモニウム水
農薬第二	3 回	・ シハロトリン ・ フラザスルフロン
農薬第三	2 回	・ チエンカルバゾンメチル ・ トルフェンピラド ・ フェンキノトリオン ・ フルオキサストロビン
農薬第四	2 回	・ ホスチアゼート ・ フェンブコナゾール
農薬第五	2 回	・ カスガマイシン ・ ポリオキシシン（ポリオキシシンD亜鉛塩及びポリオキシシン複合体）
動物用医薬品	4 回	・ 鶏伝染性ファブリキウス嚢病・マレック病（鶏伝染性ファブリキウス嚢病ウイルス由来VP2遺伝子導入七面鳥ヘルペスウイルス）凍結生ワクチン（バキシテックHVT+IBD） ・ オイゲノール ・ オキシクロザニド ・ クロルヘキシジン ・ エグゾルト ・ ニトロキシニル ・ メンブトン ・ イソメタミジウム
微生物・ウイルス	1 回	・ 座長選出 ・ 座長代理の指名 ・ 食品健康影響評価技術研究（カンピロバクター）の発表
プリオン	1 回	・ フィンランドから輸入される牛、めん羊及び山羊の肉及び内臓 ・ デンマークから輸入される牛肉及び牛の内臓 ・ オーストリアから輸入される牛肉及び牛の内臓 ・ 国産牛肉のSRM見直し
遺伝子組換え食品等	2 回	・ ZGL株を利用して生産されたグルコースオキシダーゼ ・ JPAN003株を利用して生産されたグルコアミラーゼ ・ JPAN007株を利用して生産されたヘミセルラーゼ ・ EVG-L1株およびEVG-G1株を利用して生産されたグルタミルバリルグリシン
肥料・飼料等	2 回	・ ピランテル ・ ナフシリン ・ メシリナム ・ 酢酸イソ吉草酸タイロシン ・ バージニアマイシン

		・デコキネート ・アスタキサンチン
栄養成分関連添加物WG	1 回	・専門委員の紹介 ・座長の選出 ・ワーキンググループの運営等 ・25-ヒドロキシコレカルシフェロール
薬剤耐性菌WG	2 回	・硫酸コリスチン ・スルホンアミド系合成抗菌剤
評価技術企画WG	2 回	・in silico評価手法に関連する研究事業の成果報告及び意見交換 ・(Q)SARを活用した変異原性の評価について
アレルギーを含む食品WG	2 回	・令和2年度食品安全委員会運営計画について ・アレルギーを含む食品に関する食品健康影響評価について
鉛WG	1 回	・鉛の食品健康影響評価について
菌末を原材料として使用する調製粉乳WG	1 回	・菌末を添加した調製粉乳の安全性評価について

3. 意見交換会の開催等

(1) 講師派遣（全2回、うち委員0回）

開催日	開催地	講演会名	依頼者	対象者
7/22	東京都	消費者大学講座 (テーマ：食品安全を守る仕組み・調査審議の透明性の確保)	一般財団法人消費科学センター	一般消費者等
9/25	東京都 (Web開催)	食に関する学習会 (テーマ：健康食品との付き合い方)	一般社団法人全国消費者団体連絡会	一般消費者等

※ 意見交換会、講座、訪問学習については開催なし。

4. 情報提供

Facebook、ブログ

健康に被害を及ぼすおそれのある案件、国民の関心が高い案件についての機動的な情報提供。

■ 7月：16 記事

閲覧数 (Facebook) 約51,000件/月、(ブログ) 約3,400件/月

投稿日	記事内容
2	防衛医科大学校の「公衆衛生学」研修
3	「病原大腸菌による集団食中毒が発生しました」 【キッズボックス】食中毒を防ぐために～肉の場合～ (2020年6月号)
6	知って防ごう！カンピロバクター食中毒 (第4回：予防法)
8	令和2年7月豪雨について
10	知って防ごう！カンピロバクター食中毒 (番外編：リスクプロファイルと動画の紹介)
13	アニサキスによる食中毒にご注意
15	苦味のあるウリ科植物に注意
16	【お母さんになるあなたへ】葉酸の摂取について
17	【腸管出血性大腸菌による食中毒の予防】

20	【用語集から】化学物質系分野
22	【キッズボックス】食中毒を防ぐために～野菜の場合～（2020年7月号）
	【エコバッグを衛生的に！】
29	【お母さんになるあなたへ】ビタミンAの摂り過ぎに気をつけて
31	広報誌「食品安全」の最新号（第57号）を公表しました
	【編集後記（文月）】8月は食品衛生月間です

■ 8月：12記事

閲覧数（Facebook）約58,000件/月、（ブログ）約3,400件/月

投稿日	記事内容
5	【用語集から】生物系分野
7	【お母さんになるあなたへ】いろいろな魚介類をバランスよく食べて
12	食中毒予防のための下ごしらえ① 野菜は洗う
13	食中毒予防のための下ごしらえ② 魚介類は洗う
14	食中毒予防のための下ごしらえ③ 食肉は洗わない
18	【キッズボックス】食中毒を防ぐために～魚の場合～（2020年8月号）
19	今が旬のモロヘイヤ ～種子には毒性があるので家庭菜園での栽培時にはご注意を！～
21	今が旬のウリ科の野菜～強い苦味に要注意～
25	【ストップ！食中毒】作り置き料理による食中毒にご注意をーセレウス菌ー
26	【お母さんになるあなたへ】～十分に加熱した食品を食べましょう～
28	塩と健康～塩の役割～
31	【編集後記（葉月）】塩と健康～食塩の摂取量～

■ 9 月：(Facebook) 12記事、(ブログ) 11記事

閲覧数：(Facebook) 約26,100件/月、(ブログ) 約2,900件/月

投稿日	記事内容
2	【ストップ！食中毒】キノコによる食中毒に注意しましょう！
3	Webサイト豆知識 ～相互リンクのバナーを設けています～
8	停電時の食中毒に注意しましょう！
10	【お母さんになるあなたへ】～カフェインの摂り過ぎに注意しましょう～
11	Webサイト豆知識 ～50音順のハザード情報ページ更新のお知らせ～
15	【キッズボックス】食中毒を防ぐために～煮込み料理の場合～（2020年9月号）
16	【令和3年度研究課題の公募開始】
18	ジャガイモと食中毒成分
30	【お知らせ】不具合解消のお知らせ（※FBに限り投稿）
	【令和元年度で終了した研究課題の研究成果報告書を公開】
	食品安全委員会の英文電子ジャーナル「Food Safety - The Official Journal of Food Safety Commission」Vol. 8, No. 3を公開しました。
	"Food Safety - The Official Journal of the Food Safety Commission of Japan" Volume 8, Number 3 has just been published.

食品健康影響評価の審議状況

(令和2年9月30日現在)

区分	諮問案件						自ら評価
	要請件数 注1、2)	うち 令和2年度分	審議中 注3)	意見 募集中 注4)	評価終了 件数	うち 令和2年度分	評価終了 注5)
添加物	296	1	3	1	292	5	
栄養成分添加物	2		1		1		
香料	7				7		
農薬	1254	12	152	2	1100	19	
うちポジティブリスト関係	544	1	141		403	4	
うち清涼飲料水	25				25		
うち飼料中の残留農薬基準	59		19		40	1	
動物用医薬品	631	5	30	5	596	5	
うちポジティブリスト関係	137		28	3	106	2	
器具・容器包装	21		3		18		
汚染物質等	67		1		66		3
うち清涼飲料水	52		1		51		
微生物・ウイルス	20		1		19		2
プリオン	66	1	11		55		14
かび毒・自然毒	9				9		5
遺伝子組換え食品等	327	10	21	2	304	2	
新開発食品	91				91	1	1
肥料・飼料等	305	3	57		248	5	
うちポジティブリスト関係	143		50		93	1	
薬剤耐性菌	68		10		58	2	1
高濃度にジアシルグリセロールを含む食品に関するWG	1				1		
食品による窒息事故に関するWG	1				1		
放射性物質の食品健康影響に関するWG	2				2		
その他(指定成分、アルミニウム)	2				2		1
合計	3170	32	290	10	2870	39	27

- (注) 1 リスク管理機関から、評価要請後に取り下げ申請があった場合には、その分を要請件数から減じている。
2 評価の過程で新たに審議する必要がある案件が生じた場合には、評価終了時にその案件数を要請件数に加算している。
3 「審議中」欄には、審議継続の案件のほか、今後検討を開始するものを含む。
4 「意見募集中」欄には、意見情報の募集を締め切った後に検討中のものも含む。
5 自ら評価案件については、「評価終了」の欄では、複数省庁に答申したもの、答申が複数案件となったもの等について、その数を記入しているものもある。なお、現在審議中の案件は「食品及び器具・容器包装中の鉛」、「アレルギーを含む食品」、「硫酸コリスチン(薬剤耐性菌)」である。
6 「飼料中の残留農薬基準」欄については、ポジティブリスト制度の導入に際して、飼料中の残留基準が設定された農薬についての食品安全基本法第24条第2項に基づく意見聴取案件数である。
7 「薬剤耐性菌」欄には、肥飼料・微生物合同調査会(H18.3.6～H27.8.24)で審議したものも含む。

委員会の意見の聴取に関する案件の審議状況

(2020年9月30日現在)

参考2

I 専門調査会において検討中、または今後検討を開始するもの

接受日	要請元	食品健康影響評価の対象	
2003/7/3	厚	清涼飲料水の規格基準を改正すること（汚染物質1物質）	1
2003/12/8	農	薬剤耐性菌 飼料添加物として指定された抗菌性物質、動物用医薬品のうち、飼料添加物として指定されている抗菌性物質と同一又は同系統で薬剤耐性の交差が認められる抗菌性物質により選択される薬剤耐性菌※（亜鉛バシトラシン、スルファキノキサリン、スルホンアミド系合成抗菌剤、テトラサイクリン系抗生物質、マクロライド系抗生物質）	5
2004/10/29	農	動物用医薬品 アンピシリンナトリウムを有効成分とする牛の注射剤（注射用ビクシリン）[肥] [耐]、動物用医薬品 チアンフェニコールを有効成分とする牛及び豚の注射剤（ネオマイゾン注射液及びバシット注射液）[耐]	3
2005/2/14	厚	農薬 ジコホール	1
2005/8/5	農	動物用医薬品 スルファメトキサゾール及びトリメトプリムを有効成分とする豚の飲水添加剤（動物用シノラル液）[肥]、動物用医薬品 ホスホマイシンを有効成分とする牛の注射剤（動物用ホスミシンS（静注用））[耐]	2
2005/9/13	厚	動物用医薬品 アンピシリンナトリウム[肥]、スルファメトキサゾール[肥]、トリメトプリム[肥]	3
2006/7/18	厚	動物用医薬品 アンピシリン☆[肥]、スルファメトキサゾール☆[肥]、トリメトプリム☆[肥]	3
2006/7/18	厚	農薬 ジコホール☆、	1
2006/12/19	厚	農薬 フリラゾール☆	1
2007/1/15	厚	農薬 イマゼタピルアンモニウム塩☆、ピノキサデン☆	2
2007/1/15	厚	動物用医薬品 クマホス☆	1
2007/2/6	厚	農薬 スピロキサミン☆	1
2007/2/6	厚	動物用医薬品 アレスリン☆、クロルマジノン、スルフイソゾール	3
2007/3/6	厚	農薬 トリチコナゾール☆	1
2007/3/6	厚	動物用医薬品 イソオイゲノール☆、イソシンコメロン酸ニプロピル☆	2
2007/3/20	厚	動物用医薬品 スルファチアゾール☆[肥]、スルファジメトキシ☆[肥]、スルファモメトキシ☆[肥]	3
2007/5/22	厚	動物用医薬品 フェノキシメチルペニシリン☆[肥]	1
2007/6/5	厚	農薬 メソスルフロメチル☆、スルフェントラゾン☆	2
2007/8/28	厚	動物用医薬品 ジクロキサシリン☆[肥]	1
2007/10/2	厚	農薬 ジクロメジン<一部>☆	2
2007/12/18	厚	農薬 クロピラリド☆、イソキサジフェンエチル☆	2
2008/3/11	厚	農薬 酸化プロピレン☆、プロディファコウム	2
2008/3/25	厚	農薬 イプロバリカルブ☆、スルホスルフロ、ピリデート、フッ化スルフリル	4
2008/6/3	厚	動物用医薬品 トビシリン[肥]	1
2008/7/8	厚	農薬 クロキントセットメキシル☆、クロジナホッププロパルギル☆	2
2008/7/8	厚	器具・容器包装 ビスフェノールAがヒトの健康に与える影響について※	1
2008/9/5	厚	器具・容器包装 カドミウム、鉛	2
2009/2/3	厚	農薬及び動物用医薬品 ホキシム☆	2
2009/2/9	厚	農薬 エチオン☆、オキシデメトンメチル☆、ジクロラン☆、ジノカップ☆、フェンプロピモルフ☆、ベナラキシル☆、ホレート☆	7
2009/3/10	厚	動物用医薬品 ピランテル☆[肥]	1
2009/3/24	厚	農薬 パラチオンメチル☆、フェナミホス☆	2
2009/3/24	厚	農薬及び動物用医薬品 ジクロルボス及びナレド☆	2
2009/12/14	厚	農薬 フラザスルフロ☆	1
2010/2/16	厚	動物用医薬品 クロキサシリン☆[肥]	1

I 専門調査会において検討中、または今後検討を開始するもの

受付日	要請元	食品健康影響評価の対象	
2010/2/16	厚	対象外物質 アスタキサンチン☆[肥]、β-アポ-8'-カロチン酸エチルエステル☆[肥]、β-カロテン☆[肥]、クエン酸☆[肥]、酒石酸☆[肥]、トウガラシ色素☆[肥]、乳酸☆<農薬用途もあり>[肥]、マリーゴールド色素☆[肥]、メナジオン☆[肥]、レチノール☆[肥]	11
2010/3/1	厚	農薬 フルロキシピル☆	1
2010/3/23	厚	農薬 ベンタゾン☆	1
2010/5/11	厚	農薬 クロルデン☆	1
2010/6/22	農	農薬 ベンタゾン☆〈飼〉	1
2010/8/12	厚	農薬 ハロキシホップ☆	1
2010/9/13	厚	農薬 クロマゾン☆、トリクロピル☆	2
2010/9/27	厚	農薬 酸化フェンブタズ☆	1
2010/11/12	厚	農薬 イマザリル☆、ジフルフェンゾピル☆、ジメチピン☆、テルブホス☆、トリアスルフロン☆、パラチオン☆、ビクロゾリン☆、モノクロトホス☆	8
2010/11/15	農	農薬 テルブホス〈飼〉☆	1
2010/12/10	厚	農薬及び動物用医薬品 クロルフェンビンホス☆	2
2010/12/10	厚・農	農薬及び動物用医薬品 メトプレン☆<一部〈飼〉>	3
2011/1/24	厚	農薬 ペンコナゾール☆	1
2011/1/24	厚	動物用医薬品 セフロキシム☆[肥]	1
2011/2/10	厚	農薬 エンドスルファン☆、クロリムロンエチル☆、クロルタールジメチル☆	3
2011/3/25	厚	農薬 エタメツルフロメチル☆、ジスルホトン☆、プロモキシニル☆	3
2011/3/25	厚	動物用医薬品 ジミナゼン☆	1
2011/4/19	厚	添加物 カルミン	1
2011/4/25	農	農薬 ブロモキシニル☆〈飼〉	1
2011/6/10	厚	農薬 フェナリモル☆	1
2011/9/22	厚	農薬 EPTC☆、アミノピラリド☆、イオドスルフロメチル☆、2,4-DB☆、クロルスルフロメチル☆、シクロキシジム☆、ジフェンゾコート☆、テクナゼン☆、ニコスルフロメチル☆、マレイン酸ヒドラジド☆、メトスルフロメチル☆	11
2011/10/11	厚	農薬 ジクロホップメチル☆、トリベヌロンメチル☆、ピクロラム☆、フェノキサプロップエチル☆、ブタフェナシル☆、フルオメツロン☆、アトラジン☆	7
2011/10/11	農	農薬 アトラジン☆〈飼〉	1
2011/11/18	厚	農薬 トラルコキシジム☆、フェノキシカルブ☆、プロスルフロメチル☆	3
2011/12/19	厚	プリオン 牛海綿状脳症（BSE）対策の見直し（オランダ）	1
2012/1/23	厚	農薬及び動物用医薬品 シハロトリン☆	2
2012/1/23	農	農薬 エチオン☆〈飼〉、ホレート☆〈飼〉、シハロトリン☆〈飼〉、ジクロルボス及びナレド☆〈飼〉	4
2012/1/23	厚	動物用医薬品 スルファジミジン☆[肥]	1
2012/2/24	厚	動物用医薬品 イソメタミジウム☆	1
2012/3/26	厚	農薬 リムスルフロメチル☆	1
2012/3/26	厚	農薬及び動物用医薬品 エマメクチン安息香酸塩☆	2
2012/5/21	厚	農薬 4-クロルフェノキシ酢酸☆、トリデモルフ☆、フラムプロップメチル☆	3
2012/7/18	厚	農薬 ホスチアゼート■<一部☆>、テフルトリン☆	2
2012/7/18	厚	動物用医薬品 バシトラシン☆[肥]	1
2012/8/21	農	農薬 シフルトリン☆〈飼〉	1
2012/8/21	厚	農薬 フサライド☆、フルスルファミド☆	2
2012/8/21	厚	農薬及び動物用医薬品 シフルトリン☆	2
2012/8/21	厚	動物用医薬品 カルバドックス☆[肥]	1
2012/9/18	厚	農薬 メコプロップ☆	1
2013/1/22	農	農薬 クロルピリホスメチル☆〈飼〉、クロルフェンビンホス☆〈飼〉、シマジン☆〈飼〉、パラチオン☆〈飼〉	4
2013/1/30	厚	農薬 クロルピリホスメチル☆、シマジン☆	2

I 専門調査会において検討中、または今後検討を開始するもの

接受日	要請元	食品健康影響評価の対象	
2013/3/12	厚	農薬 アイオキシニル☆、イプロジオン☆、エテホン☆、オキサミル☆、カルフェントラゾンエチル☆、クロリダゾン☆、ターバシル☆、ピリミホスメチル☆、フルシトリネート☆、ホルクロルフエニユロン☆、メタミトロン☆、メチダチオン☆、レナシル☆	13
2013/3/12	厚	動物用医薬品 ハロフジノン☆[肥]	1
2013/3/12	農	農薬 ピリミホスメチル	1
2013/4/2	厚	プリオン プリオン ポーランドから輸入される牛肉及び牛の内臓について※	1
2013/6/10	農	農薬 γ-BHC☆〈飼〉、ジメトエート☆〈飼〉、パラコート☆〈飼〉、メチダチオン☆〈飼〉	4
2013/6/12	厚	農薬 アラニカルブ☆、イマザキン☆、ジウロン☆、シプロコナゾール☆、ジメトエート☆、パラコート☆、フルキンコナゾール☆	7
2013/8/20	厚	農薬 DBEDC■〈一部☆〉、ノニルフェノールスルホン酸銅■〈一部☆〉、イマザモックスアンモニウム塩☆、ヒメキサゾール☆、メトリブジン☆、リニユロン☆	8
2013/8/20	厚	農薬及び動物用医薬品 ジヒドロストレプトマイシン及びストレプトマイシン☆[肥]	2
2013/12/10	厚	動物用医薬品 ナイカルバジン☆[肥]	1
2014/3/25	厚	動物用医薬品 ゼラノール☆、マデュラマイシン☆[肥]、ロベニジン☆[肥]	3
2014/9/9	厚	農薬 ピラゾリネート☆	1
2015/1/8	厚	プリオン スウェーデンから輸入される牛肉及び牛の内臓 ※	1
2015/3/30	厚	プリオン デンマークから輸入される牛肉及び牛の内臓 ※	1
2015/5/14	厚	プリオン スイス及びリヒテンシュタインから輸入される牛肉及び牛の内臓※	2
2015/9/30	厚	プリオン イタリアから輸入される牛肉及び牛の内臓※	1
2015/12/18	厚	プリオン 牛海綿状脳症（BSE）国内対策の見直し※	1
2016/9/8	厚	プリオン オーストリアから輸入される牛、めん羊及び山羊の肉及び内臓※	1
2017/4/19	厚	農薬 ピレトリン☆	1
2017/8/3	厚	プリオン 英国から輸入される牛、めん羊及び山羊の肉及び内臓 ※	1
2017/11/30	厚	遺伝子組換え食品等 ミラクリン発現トマト（TU-IP105B-1）（食品）■	1
2017/12/19	農	遺伝子組換え食品等 ミラクリン発現トマト（TU-IP105B-1）（飼料）■	1
2018/7/4	農	動物用医薬品 バルネムリン塩酸塩を有効成分とする豚の飼料添加剤（エコノア1%プレミックス及び同10%プレミックス）■[耐]	1
2019/1/10	厚	添加物 25-ヒドロキシコレカルシフェロール■	1
2019/2/27	農	動物用医薬品 アモキシシリン水和物を有効成分とする牛及び豚の注射剤（アモスタックLA注）[耐]	1
2019/3/19	厚	プリオン スペインから輸入される牛、めん羊及び山羊の肉及び内臓 ※	1
2019/5/22	厚	遺伝子組換え食品等 JPAo003株を利用して生産されたリパーゼ■	1
2019/9/5	厚	農薬 ベンタゾン	1
2019/9/5	厚	農薬及び動物用医薬品 シフルトリン	1
2019/10/10	厚	微生物・ウイルス 乳等省令に係る調製粉乳の審査事項について（育児用ミルク）	1
2019/10/24	厚	遺伝子組換え食品等 チョウ目害虫抵抗性サトウキビ CTC175-A、CA02-1191株を利用して生産されたL-グルタミン酸ナトリウム	2
2019/11/28	厚	遺伝子組換え食品等 JPBL006株を利用して生産されたキシラナーゼ	1
2019/12/11	農	肥料・飼料等 ムラミダーゼ	1
2019/12/12	厚	遺伝子組換え食品等 JPAo004株を利用して生産されたキシラナーゼ、JPAo005株を利用して生産されたキシラナーゼ	2
2020/1/28	厚	遺伝子組換え食品等 Morph TG#626株を利用して生産されたα-グルコシダーゼ	1
2020/2/13	厚	動物用医薬品 ジニトルミド ☆[肥]	1

I 専門調査会において検討中、または今後検討を開始するもの

接受日	要請元	食品健康影響評価の対象	
2020/2/19	厚	添加物 亜硫酸水素アンモニウム水、ポリビニルイミダゾール-ポリビニルピロリドン共重合体	2
2020/2/27	厚	遺伝子組換え食品等 JPBL004株を利用して生産されたホスホリパーゼ■、JPBL005株を利用して生産されたホスホリパーゼ■	2
2020/3/17	厚	動物用医薬品 塩化ジデシルジメチルアンモニウム☆、オルトジクロロベンゼン☆、グリカルピラミド☆、クロステボル☆、ジブチルサクシネート☆、チオプロニン☆、トリブロムサラン☆、ニタルソン☆、ニトロキシニル☆、ノルジェストメット☆、ヒドロコルチゾン☆、マホプラジン☆、メンブトン☆	13
2020/3/17	厚	飼料添加物 オルメトプリム☆、酢酸イソ吉草酸タイロシン☆、ジアベリジン☆、スルファクロルピリダジン☆、スルファジアジン☆、スルファドキシム☆、スルファモイルダブソン☆、デコキネート☆、ナフシリン☆、ニフルスチレン酸ナトリウム☆、パージニアマイシン☆、ピリメタミン☆、メシリナム☆、ロキササルソン☆、アンブロリウム☆、エトパベート☆、スルファキノキサリン☆、エンラマイシン☆、カンタキサンチン☆	19
2020/3/31	農	遺伝子組換え食品等 JPTR003株を利用して生産されたムラミダーゼ、ジャガイモ疫病抵抗性、低遊離アスパラギン、低還元糖及び低ポリフェノール酸化酵素ジャガイモ SPS-00X17-5（飼料）■	2
2020/4/27	厚	遺伝子組換え食品等 ジャガイモ疫病抵抗性、低遊離アスパラギン、低還元糖及び低ポリフェノール酸化酵素ジャガイモ SPS-00X17-5（食品）■	1
2020/5/12	厚	遺伝子組換え食品等 JPAN003株を利用して生産されたグルコアミラーゼ、JPAN007株を利用して生産されたヘミセルラーゼ■	2
2020/5/13	厚	プリオン 「ドイツ・フィンランドから輸入される牛、めん羊及び山羊の肉及び内臓」※	1
2020/5/26	厚	遺伝子組換え食品等 JPAN005株を利用して生産されたベクチナーゼ、EVG-L1株およびEVG-G1株を利用して生産されたグルタミルバリングリシン	2
2020/7/13	厚	遺伝子組換え食品等 ジャガイモ疫病抵抗性、低遊離アスパラギン、低還元糖及び低ポリフェノール酸化酵素ジャガイモSPS-000Z6-5（食品）、LFS株を利用して生産されたリパーゼ■	2
2020/7/20	農	遺伝子組換え食品等 ジャガイモ疫病抵抗性、低遊離アスパラギン、低還元糖及び低ポリフェノール酸化酵素ジャガイモSPS-000Z6-5（飼料）■	1
2020/7/28	厚	農薬 トルフェンピラド■、フェンキノトリオン■、フルオキサストロビン■、ポリオキシシン（ポリオキシシンD亜鉛塩及びポリオキシシン複合体）■	5
2020/8/12	農	動物用医薬品 フルアラネルを有効成分とする鶏の飲水添加剤（エグゾルト）■	1
2020/9/2	農	動物用医薬品 トロメタミンジノプロストを有効成分とする牛の注射剤（動物用プロナルゴンE Z注射液）■	1

（注）

☆印は、ポジティブリスト制度に伴う食品安全基本法第24条第2項に基づく意見聴取案件である。

※印は、食品安全基本法第24条第3項に基づく意見聴取案件である。

■印は、企業申請案件である（平成22年1月1日以降委員会において説明したもののみ）。

◎印は、食品安全基本法第23条第1項第2号による自ら評価である。

[肥]印は、肥料・飼料等専門調査会が担当する評価案件である。

[耐]印は、薬剤耐性菌に関する評価が必要なもの。